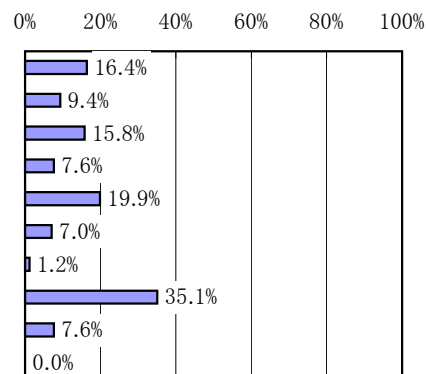


淀川水系流域シンポジウム 当日アンケート 集計結果

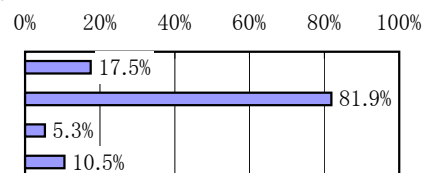
Q1. 本日、この会に参加いただいたきっかけは？（複数回答可）

項目	件数	構成比
1 委員から案内された	28	16.4%
2 知人(委員以外)から案内された	16	9.4%
3 行政関係者から案内された	27	15.8%
4 公民館、図書館、大学などで青いチラシを見た	13	7.6%
5 青いチラシが郵送されてきた	34	19.9%
6 インターネットホームページ	12	7.0%
7 ラジオで聴いた	2	1.2%
8 新聞・雑誌で見た	60	35.1%
9 その他	13	7.6%
n 無回答	0	0.0%
回答者数	171	100.0%



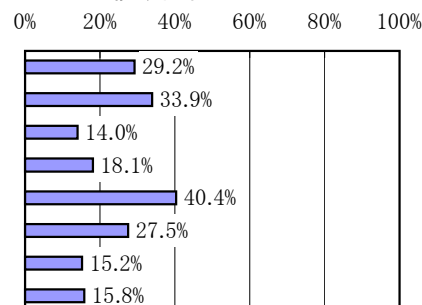
Q2-1. 今回のシンポジウムで興味深かったコーナーはありましたか？（複数回答可）

項目	件数	構成比
1 流域委員会からの報告	30	17.5%
2 パネルディスカッション	140	81.9%
3 展示	9	5.3%
n 無回答	18	10.5%
回答者数	171	100.0%



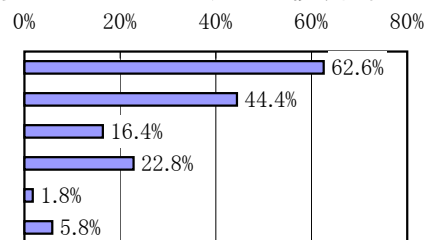
Q3-1. 今回シンポジウムに参加して、意識や考え方が変わった点が何かありましたか？（複数回答可）

項目	件数	構成比
1 水質保全の大切さ	50	29.2%
2 自然環境保全の大切さ	58	33.9%
3 節水に対する意識	24	14.0%
4 水害への危機意識	31	18.1%
5 河川敷利用に対する問題意識	69	40.4%
6 川づくりへの参加意識	47	27.5%
7 その他	26	15.2%
n 無回答	27	15.8%
回答者数	171	100.0%



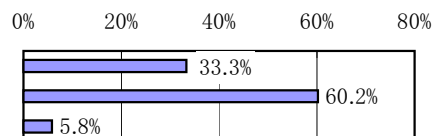
Q4-2. 今後、流域委員会のイベントや一般の方に意見を聴く会があった場合、参加したいと思いますか？（複数回答可）

項目	件数	構成比
1 今回のようなシンポジウムに参加したい	107	62.6%
2 一般の流域住民に意見を聴く会に参加したい	76	44.4%
3 通常の会議を傍聴したい	28	16.4%
4 自分の意見を発言できる場に参加したい	39	22.8%
5 あまり参加したいと思わない	3	1.8%
n 無回答	10	5.8%
回答者数	171	100.0%



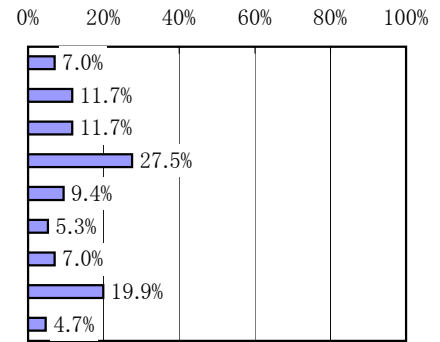
Q5-1. 以前から「淀川水系流域委員会」について、知っていましたか？

項目	件数	構成比
1 シンポジウムで初めて知った	57	33.3%
2 以前から知っていた	103	60.2%
n 無回答	10	5.8%
回答者数	171	100.0%



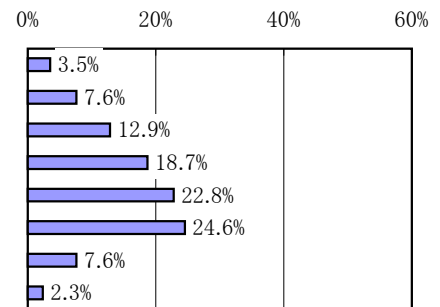
Q6. [職業] (複数回答可)

	項目	件数	構成比
1	公務員(河川関係者)	12	7.0%
2	公務員(その他)	20	11.7%
3	NPO関係者	20	11.7%
4	会社員・会社役員	47	27.5%
5	自営業	16	9.4%
6	学生	9	5.3%
7	主婦	12	7.0%
8	その他	34	19.9%
n	無回答	8	4.7%
	回答者数	171	100.0%



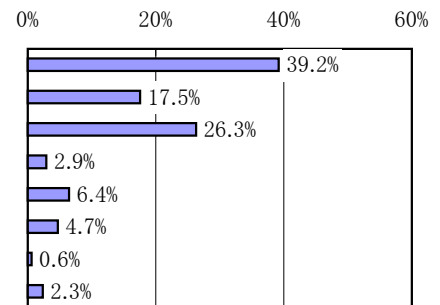
Q6. [年齢]

	項目	件数	構成比
1	20歳以下	6	3.5%
2	21~30歳	13	7.6%
3	31~40歳	22	12.9%
4	41~50歳	32	18.7%
5	51~60歳	39	22.8%
6	61~70歳	42	24.6%
7	71歳以上	13	7.6%
n	無回答	4	2.3%
	回答者数	171	100.0%



Q6. [お住まい]

	項目	件数	構成比
1	京都府	67	39.2%
2	滋賀県	30	17.5%
3	大阪府	45	26.3%
4	奈良県	5	2.9%
5	兵庫県	11	6.4%
6	三重県	8	4.7%
7	その他	1	0.6%
n	無回答	4	2.3%
	回答者数	171	100.0%



【当日アンケート集計結果・資料編】

Q1. 本日、この会に参加いただいたきっかけは？（複数回答可）	
8 新聞・雑誌で見た（新聞名・媒体名）	
朝日新聞	12名
京都新聞	5名
毎日新聞	4名
読売新聞	3名
リビング京都	3名
日経新聞	1名

9 その他	
eメールで開催を知り応募しました	
関係行政機関の職員	
行政担当者の為	
淀川水系流域委員会でアナウンスがあったから	
委員会の傍聴	
意見書を提出した	
国土交通省に勤務	
大阪水都会場ちらし	
流域委員会で知った	

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q2-2. 今回のシンポジウムで興味深かった点や感想などを具体的にお教えてください。
「自然」の実感!!
「自然」の理解の差がハッキリしたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・嘉田先生の「農地利用」のご提案は折衷案としてはおもしろい。その場合水はもちろん川から直接取水できる工夫が必要でしょうね。でも川上先生のご意見に手を挙げたい。 ・去年見た高山ダム我真緑の水があれが あおこの実態なのだと確認できてよかったです。通りすがりでぎょっとしてビックリしていたのですが。
<ul style="list-style-type: none"> ・大変面白く拝聴できたが、一部の委員は何を言わんとしているのか全く理解できなかった。パネラーとしてミスキャストではなかったか。 ・10分間の休憩時間は不要。もっと時間いっぱい討論してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・立場の違い、生活様式の違い、年齢の違いにより様々な意見が聞けたのは非常に有意義であったと思う。 ・川上さんの情熱が伝わった。
<ul style="list-style-type: none"> ・人と水とのかかわり。生活としての川。・雨水の利用
<ul style="list-style-type: none"> ①自然をとり戻した淀川にしようと言う事だと思う。 ②淀川に多くの人達が接しているのは下流だと思う。本日は下流の意を吸収して呉れる人が居られない。それは河川の使用等々である。 ③淀川の本当の恐さは、高潮で有って、もっと堅固な堤防にする必要がある。
30年後のあるべき河川および共同河川管理の姿が明示できていない。市民の声は様々であり、時期・地先によって変化する集約の方法がよく分からない。
新しいことに取り組んでいることは分かるが、今までやってきたことの評価はどうなっているか。一般住民には大変わかりにくい内容であった。遙さんの言いたいことは分かったがあと3人は一般住民には分かりにくい話であった。
アンケート結果の発表について
委員会の中間まとめが今後の整備計画(30年程度)のキーになることを知り、より注目していかなくてはいけないと思った。この点については広報不足ではないか。
委員の間でも色んな意見があり、活発に議論されてきている様子が垣間見れました。
委員の皆さんも色々意見は持っているが、またなやんでもいることが分かりました。自然を考える場合、人が慎ましく生きていても自然にとっては具合が悪い。然し、人間も自然の一部であるから共存をするために自然を知ることが大切だ。
意見の対立
一般市民の疑問に短時間で簡単に答えるのは極めて困難。
各パネリストの各論は同意する部分は多くありますが机上の空論にならないよう注意してください。
河川が治水、利水を中心に管理されてきたことに対して、住民参加の必要性を感じた。この場合の住民とは今まで広く行われてきたような「いわゆる有識者」では無理と思う。
河川敷の利用について: 河川敷の特性を活かした農業(湿地を活かした)、河川敷でない出来ない農業、あるいは水産の場としてまず生かすべきで、堤内地でも可能な農業やスポーツ設備を置く余裕はない。あるとしても前者が十分出来てから作るべき。
嘉田さんの話を聞いて、河川敷の農園としての利用は、良いアイデアだと思ったが川上さんの言うとおりはせめて河川敷は自然のままにしておくべきだと思った。ゾーニングや農園利用では川本来の自然は守れないと思う。
嘉田さんや遙さんのお話はわかりやすく柔軟な発想で面白かった。昔の湖河との関わり方にはビックリです。「自然」というのは人間の生活も含めてであり、人間が一切手を加えない「自然」なんてかんがえてもしょうがないと思いました。
嘉田先生の写真を使った分かりやすい説明には感心しました。また、遙さんのようにリスクを負うかわりに便利であればよいと考える思想も仕方はないと思うけど、何かかわびしいものを感じてしまった。
嘉田由紀子氏のスピーチは説得力があってよかった。パネラーは聴衆が理解しやすい言葉で話して欲しい。日本人の自然観と河川の関係。原始自然の保存も部分的に必要。人寄せパンダのようなタレントの登用は意味がないと思います。
川上聡氏の写真ならびに説明および嘉田由紀子氏からの写真説明に感応した。遙洋子氏の発言にも興味があった。
川上さんの自然環境重視の立場、嘉田さんの人間の立場重視に補足を置いた自然環境の保全の立場の違い。この違いは世の中全般にある。この両者のどこで折り合いをつけるかが、今後のこの計画のポイントとなるかもと思った。私自身は川上さん寄りの意見に賛成。
川と人間とのかかわりを改めて認識しました。時間があれば、出来る限り川へ足を運びたいと思います。
河に対する人々の考え方の多様性がよく分かった。
川のことはあきらめていました。だが、これだけ長期間活動しておられる人たちがいるのに何故水がきれいにならないのか。誰かが悪いという言い方ではなくこの点はお聞きしたいです。きれいだった木津川でさえとんどん汚れています。
川を大切に意識する意識やリスクを背負うことは、今、生活と川が密着していない事が原因でなくなっている。それをどの様に人と川が密着するかについての考え方が、人それぞれ。人を中心に考えるのか自然を中心に考えるのかという違いにどちらが正しいのか?と疑問に思った。
環境と自然と安全治水との関わり。
具体的意見を聴くことの重要性。
洪水の被害はイコール人類の歴史でもある。一朝一夕には成らない。これは別のスタンスで課題にして取り組んでゆき、「生活と河川」「川への親しみ」へ今は取り組み、時に本会は都会と地方を含む具体案を出すこと。

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q2-2. 今回のシンポジウムで興味深かった点や感想などを具体的にお教えてください。
個人的に環境関連のことでの取り組みはありますがこの会の開始までどういう活動をされている団体なのか全く知りませんでした。ですので、個人の関心をもつ分野と少しかけ離れていました。治水のことに内容が偏りすぎていて全般的に取り上げて欲しいと思いました。
子供が川で遊んでいた時代の川は優しかった。今、川は恐ろしい(危険な)ものになって子供が来なくなった。埼玉県荒川流域で「川ガキ」(川で遊ぶ子供)を復活させようという運動がある。これを淀川流域で実現させたい。
コンピューター、写真等にての投影説明、特に30年前と現在との同位置の変化…、あまりにも人間本位の自然破壊を感じた。
様々な考え方がある事がわかってよかった。どうしたら良いかを意見を出しあい考える。
滋賀県下の今昔住民の対応について皆様は知らなさすぎる。
自然環境を大切にしていく。
女性の現実的な考え方と男性のロマンとの議論で楽しかったです。川上さんのこだわりも共感できます。
水害について日頃あまり意識しなかったことを深く反省すると共に地域に密着した河川との関わりについてこれから良く考えてみたいと思いました。
専門家の意見を聞きかかったが遙さんはしゃべりすぎて水への関心の度合いが異なりました。上水の範囲、その可能性に触れて欲しい。
専門の人と一般の人の認識の違いがありすぎて一般市民には問題がピンとこないのが現状であることがはっきりとした。
多種多様な意見を河川整備計画にどのように生かし、抽象的なあるべき形から具体的な計画策になる難しさを改めて認識し、これからの行動により意欲が湧いてきました。
たった4人のパネリストの方々でも意見が互いに違っていることに驚いた。地域住民の一人一人の意見を聞いていたらそれこそ山ほどあって委員会がそれをまとめていくのが大変だと思った。
例えば、嘉田さんは私の地元で琵琶湖博物館で研究顧問をされていて、話を聞かせて頂いたところ、「人間」をまず中心に考えて、それに関わる自然環境を考えておられます。また、正反対に川上さんは、「人間以外の動植物」などを中心に考えておられるようです(単純には言えませんが)。個人的な意見において、同じ環境にたずさわる人々も、それぞれ意見が違うものだと改めて感じました。
例えば「自然」の定義にしても、各人様々であり、いかに様々なニーズを聴取し、集約するかが課題と考えられる。その結果を民主主義で決定することは可能なのだろうか疑問である。
治水、利水の考え直し方。川上氏の河川レンジャーが興味深かった。
ディスカッションの舞台で委員、市民に加え行政の立場の人がいれば良いと思った。
展示があるのに気がつきませんでした。
日本に住むほとんどの人は無知です(水について)。そういうことを踏まえて委員会の人達は考えていくべきだと思うし、私達も同様に考えるべきだと思った。
初めてこのようなイベントに参加して、非常に楽しかった。それは、専門的な知識を持った方々がわかりやすく議論してくださったからだと思います。
破堤にならない堤防構造の実現。
話を聞いていて最後は誰が決めるのかなあと考えた。河川は安全でないということを何回も言われていたが、沿川住民にもっと知らせるべき。そこから討論が始まる。
パネラーの自然に対する意識の違いが明らかにされた点に興味を持った。若者により河川レンジャーの構想が良かった。
パネラーの意見交換は的を得てない!! パネラーの話を聞くよりパンフを読んだ方が納得がいくので途中で帰ります
パネラーの中には何を言っているか判らない発言があった。頭の悪いパネラー 水質問題を取り上げなかったのは何故だ。堤防は絶対こわれないと一般市民は考えているとしたら問題だ。
パネリスト、流域委員会委員の発言内容には落胆した。各委員の発言は抽象的、理想論過ぎて、現実をしっかりと踏えたのものとは思えない。このような委員により整備計画が影響を受けることが心配だ。
パネルディスカッションで反対意見を持った者で議論する中から、新しい方向性が見えてくると感じた。
パネルディスカッションにあえてタレントを呼ぶ必要を感じない。客寄せとしか思えない
パネルディスカッションの段取りが悪い。パネラー同士の事前打ち合わせが不十分。パネラーが暴走気味であった。
遙さんの意見に感銘をうけました。もう少しお互いの意見について(対立点)、お互いの考えを討議してほしい。
遙さんの起用はよかった。一般の方の感覚をもつ人をもう1人増やしてもよい。
遙さんの自然環境を守ること、人命財産を守ることの比較を問題提起されたことに対して、パネリストの説明では、昔はこうであった、自然は大切だと言うだけで、洪水等にて被害を受けた、その規模や被害、水は、助けは、生活はどうであったのかの合わせた説明がなく、防災に対する大切さの説明がない。片寄りすぎであったと思う。
遙さんの市民(素人)の発言が面白かった。
遙洋子さんの発言。私達も常日頃思っていたこと。
遙洋子氏の意見。これは説得むり。時間がかかる。
遙さんの意見は市民としての発表でありパネリストの学者としての考え方とは相反するものがあると考え。人が生活する上にどちらの生活が豊かであるかを問うている。生き物と人間とのかわりが今後一番大切ではないかと思う。

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q2-2. 今回のシンポジウムで興味深かった点や感想などを具体的にお教えてください。
遙さんの視点は大事。川そのものが一般化されていないから関心を持つことが一般の人にされない。利用をもっと重要視すべき。川を意識する人がもっと増えれば水質や自然環境に目も向くはず。
遙さんの問いかけは皆が素朴に思っていて言い出しにくい質問。それに対してパネリストの答えは全然かみ合っていないのが面白かった。その理論では結局過去を絶対視する問答無用自然保護主義になってしまう。
遙さんの様な意見は現実的で、一般市民の大方の思いでありましょう。シンポジウム等に参加しない多くの人々の考えは常に配慮する必要があると思われます。
遙氏の「日常生活と河沼湖とのかかわりがうすい」この隔離した河川管理の改善を求めているのに行政側の答えは抽象的で分かりにくかった。もっと具体的に説明して欲しかった。
遙洋子さんの意見が明快で印象に残った。一番共感強かった。自然・河川利用について考えが深まった。池淵さんの考えが分かりにくかった。
遙洋子さんの現代人というべき考え方は大変興味深かった。他のパネラーのインパクトがない。川とどうかかわっていくかの具体的な話題にかけるのでは？
遙洋子さんの勇気あるご意見に聴講者を代弁してくれていたように思いました。
報告の中で三本柱があるということと、この中間報告が策定から48回にも会議検討がなされたことに苦労をねぎらいたいです。
もう少し環境も意識していただかないと思うのですが(川とは最後に残された公共の空間であるのだから)レベルが低すぎた様に思います。
リスクとリスク対策問題
リスクについて、本当に受忍出来るのか疑問！自然環境をまもることと人間社会とは相反するものに思われるが今後は人間中心ではなく自然環境中心で考えていくのか。その場合、世界的人口増加を抑える必要もあるだろうし日本でも都市への人口集中を抑える仕組みが必要である。淀川についてはどのようにしていくのか。
リスク分散
流域委員会が数回開催されているがどこまで話が進んでいるのか全く分からなかった。今回、途中経過のような話をしてくれてよく分かった。
若者に自然や生き物が大切だとどのように認識してもらうかの議論
わかりやすく対立する点を明らかにするように皆が努力した。
私自身、山の中で、川のそばで生まれて育ちました。川は好きです。川を愛し、大切にすることを、今日の皆さんの話を耳にして、更に一段と理解できて、いい勉強になったと思います。
私は原始の自然を残したいと思っていましたが、人間が利用出来る自然もあるんだなあと感じた。
委員を困惑させるゲストで大変面白かった。パネルディスカッションの中で河川管理者に対して出た意見・質問を流域委員会から、河川管理者に意見・質問としてだして頂いて、河川管理者がそれに答えることのできる場も作ってほしい。
委員会の方々にはご苦労いただいています。今日のように遙さんが1人入っただけでこんなに充実していたように思います。委員会はえらい人ばかりでおなごりの委員会ではなかったらどうか？真につっこみあった話し合いをし現状をみなおしてこれからの淀川を考えていただきたい。
嘉田さんのお話を聞いていて、数十年前の私達の生活であったなあと思ったのと、いろいろな工夫をしていた事が思い出されました。遙さんのお話を聞いてみると、与えてもらう事を考えすぎではないかなあと思いました
嘉田さんの意見は完全に間違っています。農業を河川敷でやるのなら大阪市の取水口より下流でして下さい。無農薬の菜園がいかにかむつかしいか土壌は完全に汚染されているのです。(滋賀県の田んぼも含めて琵琶湖を汚し続けている事実)ゴルフ場が農薬をまきちらしている事実
皆さんいろいろなタイプの方が熱心に議論されたのが興味深かった。とくに遙さんのご発言は、明快で活発な展開に貢献したと思います。もっと議論する時間があればよかったです。はじめの川上氏のスライド上映のような説明は、もっと端的にできなかったか。
各パネラーの意見感想がいささか長すぎてシンポジウムとしての討論セミナーでなく各パネラー同志の多々持っておられるであろう水に対する考え方のようなものがあまり知り得なかったのが残念
各委員の考え方の違いが相当大きいようですが、最終的なまとめは委員の力関係で決まってしまうのではないかと心配があります。
割に本音であったと思う、肩書ははずして、ある人は賛成。別の人は反対とギロンをすべき。メモを読んでいるようなパネルdiscussionでなくて良かった。
近藤コーディネーターはA級だ。遙氏の考え方は正しい、又面白い。
洪水は少しは覚悟しなければならない
行政と学者先生のお話すぎる。本当に何をどうするかが不明。(淀川をよくするまでは分かる。)
災害に完璧安全なのはないと言うことがわかったこと
治水・防災について、浸水をしたたかにやり過ごす街づくりについては、あまり知られていない。河川環境について自然の保全・復元に対する具体的方法～自然というも原始でない人の手が入った「第二次自然」の保全・復元だと思う。
治水・利水・環境のバランスを保つ上で、流域住民へのこれまでに経験したことのない危険度(リスク)を共有できるか、できないかによって合意形成(100%住民納得)は困難である。優先順位の項目(対策面)も具体的に知らせるべきではないか？
治水利水環境の共生と治水リスクの問題

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q2-2. 今回のシンポジウムで興味深かった点や感想などを具体的にお教えてください。
自然も大切で有るが、人が人として暮らし、安全に生活できる為に治水、利水は必要で、その為の人間の知恵を出す事が必要で、ダム、河川の改修など最低限は必要。
自然界(動植物)の保存(保護)と人間のリスクについてプロセスについても非常に参考になりました
自然災害を100%避けることは不可能だと思います。ぎりぎりの選択をして人は生活していると思う。
自然認識の違い、川への認識の違いを解説しHPに投稿したいと思います。川上氏には大変頑張って欲しいです。
若い人(子供)と年配の方との川の付き合い方の共存が必要であると感じました。都会に住む子供達は川で遊ぶ、川で生活という経験はないので、総合学習などを使いながら、行っていく必要であると感じました。
焦点がボケている。シンポの目的は何なのか取りまとめの広報なのか、洪水の話なのか人と川との関わりなのか…
人間中心か他の生物中心か水害は許容できるか
水の大切さを感じた今後大切にしよう
生活に密着した課題を提起され参考になりました。
生態系と自然のかかわりをもっとうまく都会人に説明できないか。全体として河川・湖沼と伏流地下水のかかわりが浅すぎる伏流地下水をもっと取り入れる様に
川とのふれあいについて、環境部分は大切であるが、整備することにより自然はこわれぬ。大切なことは、川を身近に感じること、川と接することが重要であり、そのまま放っておくことは、川の景観を悪くする。
川上委員が生態系を知らない遙さんはダメだときめつけるような、又今後年内の河川計画は我々委員がきめるんだといていましたが委員の人選経過を公表してください。森下郁子先生のような専門的にくわしい人を選ぶべきだ。
川上委員の「せめて河道内だけは自然を残したい」の意見には大賛成。利用ありきの意見には自然に対するおごりがあり謙虚さが感じられない。
丁々発止。演出であれば見事。しかしそうではなくて本当に“自観観”についてこれまで話しあわれていないのであれば残念。遙さんの立場はよかったけど、近藤さんの役割が減ってしまって、池淵さん、川上さんの話の意図?をききにこくなくなった。
同じ意見でなかったことに興味あった。
琵琶湖や周辺では30~40年大阪、京都市街地では100年前と変化している。その時間のずれに興味をもった
便利、安全を優先したい一般の考えと、自然保護・生態系維持により将来世代を守るとの専門家の考えとか明確に示されて興味深い。ただ遙氏の率直な考えを十分に説得できたとは思われない。安全を多少犠牲にした生活スタイルが今後必要になるのではないか。
母なるびわ湖開発にどれだけ感心を持ってシンポジウムが開催されるか?源流を勉強してほしいですネ。農業、開発(びわ湖保全開発)本当に誰のために使用され、開発されているか多に疑問有
望ましい河川環境について地域住民で充分議論する場をつくる必要がある
問題の核心・本質にふれていない議論でものたりなかった。汚染の原因、その防止について行政が行なって来たことが、汚せんの原因になっていることを言うべきだ。歯にぬれぎぬをきせたような話であった。
遙さんのつっこみがとても新鮮で良かった。スタンスや自然に対する違いがおもしろかった。価値観が多様化しており、住み分けや多面的な河川利用が必要と思った。
遙さんの明解な疑問提起が、共感を持った。
遙さんの問題提示「治水か生態系維持か?」について
遙洋子さんの率直な疑問は多勢の人の疑問であると思う。然しながらパネラーの説明では納得できなかったのではないか。それほどに河川というものが単純でもないし、河川に対する人々の思い入れも多様であるからであらう。今の委員会の議論も、ある意味では単純になっているのではないか。〇〇タキという点でー。

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q3-1. 今回シンポジウムに参加して、意識や考え方が変わった点が何かありましたか？
7 その他
「水利」の話があまりなかったのは残念
学問的な特殊語(専門語)で一般人に語らないこと。通じなければ意味がない。無駄となる。
環境について人間が考える場合、多少の偽善的な面が見え隠れしていて(本人に自覚がなくとも)、でも、それぞれはより良い方向に向かいたいという意識はあるわけで、人間というものが自然に対してどう対応していくかは、思っているよりも難しいことだと改めて認識しました。
感心の多様化
合意形成について
市民参加のあり方
シンポで聞くまでもない
生物の育つづくりを！
設問にある様な事がシンポで議論されましたか?なかったのでは
設問に対してより深められる内容を望みます。
遙さん、また嘉田さんの指摘されたとおり、「自然に対する一般人の考え方」、単的にしてよく分かった。
水は有限な資源でありそれを有効に利用する大切さ。
メタ「自然」観のギャップを埋めるための工夫の必要性(ひょとして男女ギャップ??)
もともとどれも問題意識を抱えているのであまりかわらない
利用の重要性
議論の大切さ
人間が川をなぶり過ぎることによるへいがい
世間へのアピール不足
総合的な人の有り方
地域住民(素人)に意見をもらうことの大切さ
都会人とのかわり方
なし
特になし

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q3-2. 日常生活の中でこんな行動を起こしたいと思ったことがあれば、ご自由にお書きください。
1)川にものを捨てない 2)子供たちに正確な情報を伝え、教える。 3)市町村が積極的に行事をやり、市民の認識を広めて、協力を促すこと。 4)危険が前面に出るのは、行政が責任を恐れるからであり、市民も自己責任と甘えを除くこと
1)もっと川を深く掘り、河川管理を徹底すべき。山に木を植える。池を残す 2)よしや川の植物を残す
1. 生活排水と衛生面:病人や老人介護面の清潔さを保つためにどれ位水の利用をすればO.K.なのか。(節水との関連)。 2. 天然災害:台風や、他府県の河川管理の方々のご意見の交換があれば進歩するのではないのでしょうか。
10数年来、小生京都御苑内外の井戸水(地下水)に関心を持ち、又当然その水を毎日早朝にペットボトルにくみおき、飲んでいまして水道水を体内に入れることは全くありません。京都北山からさらに北へのぼって山々に降る雨が酸性雨であれば、その水が地下に浸透して井戸水として上京区の御所近辺でくみ出した時に水質汚染されていないかとやがて心配になります
①水質保全の大切さ 何しろ川が汚れている。全く汚染されている。飲める水も飲めない現状である。そのため産廃物の不法投棄を絶対やめさせたい。 ②水害への危機意識 私自身S28年8月、南山城大水害(木津川上流)にあった被災者の一人です。水はなくてはならない資源である半分魔物である。大水害はまだまだ予想される。河川対策に税金を有効に使ってほしい。
50近く話し合いがされても、自然の捉え方に違いがある。やはり、前提条件にエネルギーをかけ、その後に検討すべしと思った。
雨水は節水にもなるし、水害の時のライフラインの非常用となるので利用していきたいと思いました。
雨水利用を更に発展させて中水道の敷設を考える必要あり。今後ある程度の面積・戸数を有するニュータウン建設には中水道の敷設を義務づけてはどうか。
いずれの項目も日頃から持っている意識です。河川の美化運動を住民運動として実施。単にゴミ拾いでは駄目で併せて河川の自然鑑察会などを行う。
今、本当に流域住民が川との関わりを望んでいるのだろうか？
各人様々な意見をギロンする必要である。 これらをどう集約し、決定するかが問題、自ら意見を出してギロンに参加したい。
河口付近の広い河川敷利用は、それだけでシンポをやってもよいのではないか、非常に難しいが。 ただ、自然(川上さんのような原始自然)派?のグループが沢山あるので、それをプラスに位置づけるのはそれはそれでちゃんと別にやるべき。ダムも別。
河川環境を守るボランティアに参加したいと思いました。
河川敷にグラウンドがあり、そこでスポーツをすることで自然を知り洪水で冠水する事で自然の怖さを知ることができるのでは？
河川敷に農園をつくることでちゃんと行政から許可をもらいたい。
河川敷の自然観察会を行い、グラウンドや公園となっているところと自然のままの所を比較し自然度の違いを認識し、川のあり方を考える。
河川敷利用の具体的内容を考えていきたい。
桂川流域松尾橋下流に、個人的な畑が敷地内にある。水域における、共用的な、住民、市民の水に対応し、利用、遊びにできるようにしてほしい。
川づくりの基本は治水(洪水から住民を守る)であることにはかわりはない。しかし、私達の生活のスタイルから、川をいじめてきたこともまた実際です。水を使うだけ使い、濁すだけ濁す。これは目の前から不都合なものはなくなればあとは知らないといった、価値観が現在多いのではないか。水質保全の大切さに関して、ライフスタイルを変えることの必要性に気づくような行動をしたい。
川と親しむイベントなどがもっと増え(特に学校が土日休みになったこともあり)川との距離が縮まれば、みんなの考え方が(特に若い人)がかわるのではないのでしょうか。子供の頃川と親しんだ40代以上の人と若い人とのギャップは大きいのではないのでしょうか。
川の利用を考えてみたいな
川への(水への)取り組み方について、嘉田、川上氏の真摯な姿勢に感動した。
環境省環境カウンセラーとして現在の河川の水質の実態。特に底質の環境ホルモン濃度が大変危険。海に流して閉鎖系海での環境ホルモン汚染に連なることの危険を市民に啓蒙したい。
官にまかせないで、我々住民が先頭になって、これからの河川事業を検討すべきだと思う。
現在、滋賀県守山市においてモデル河川づくりに挑戦しています。(赤野井湾流域協議会、目田川モデル河川づくりの会)
現在の生活の中で川との関わりを持つと言うことは難しいと思う。以前(明治期)は川を生業とする人、川で洗い物をする人も多かったと思う。然し、そういう頃でも川と離れた距離に住んでいた人は関わりはあったのだろうか？
現状、防災は役所でやっており、住民はそれのサービスを受けるだけなのが問題。似た例に過剰なPL法があるがサービスを受けるだけの消費者は傲慢になってしまう。嘉田先生の話にもありましたが、住民が水防に携わる事によって対応力が身につけてくると思うので、そういう活動に参加したい。
現スカウト活動に河川スカウトを設けては？委員から「河川レンジャー」の提案があったが、河川局の一部機能を放棄して自治体をまたがる流域単位にそのような制度になるなら賛成(屋上居を重ねない。公共予算に頼らないことが原則)。←都市河川は巨大になりすぎ、市民、水防団レベルで対応できなくなった。
行動を起こした云より、もう前から起きている。河川高水敷のゴミ収集等、清掃をしている。それはさえずり等の大阪の小さな自然を求めて行っているのである。 本日の川上委員の言には、非常に残念に思う。